

## 越後水無川 北沢

2004年8月28日～29日

参加者 2名 吉田（記）

28日 天候 晴れ

前夜六日町のコンビニで後ろから中島さんに肩を叩かれた時には、夢を見ているような感じがした。どうしてこんなところで遭うのであろうか。何処に行くのかと聞くと、隣の沢だという。

六日町駅のトイレで仮眠を取っていたら、お巡りさんに起こされてしまった。大人しく事情聴取を受けて、怪しい者でないことを確認してもらい、お引取り頂いてから、再びシュラフに入ったが、それ以降は寝付かれなかった。

十二平まで車を転がして行くと、テントが一張り見えた。我々が出発の準備をしていると、テントから中島さんと連れの2人が出てきた。朝の挨拶を交わしてから出発した。

登山道を50分ほど歩くと、デトノアイソメ平に着いた。広々としたところである。右側から不動沢が流れ込んでいた。デトノアイソメ平でガチャを装着した。水量が思ったほど多くないので、広いゴーロ帯をあっちこち歩きやすいところを選んで歩けた。暗峠というゴルジ

ユもさほど濡れることもなく通過できた。

御月山沢手前のゴルジュの中を覗くと滝が見えるが、背が低いので突破できそうに見える。しかし、ここは通過不能と云うことである。左岸のルンゼから高巻く。一手嫌らしいところがあるので、ザイルを出して取り付いた。高巻きは3時間ほど続いた。松田さんに言わせるともう少し低いところを巻いたほうが時間も短縮できて良かったそうである。越後の沢の高巻きは悪いと聞いていたので、何時もより慎重に行動した。

関門の滝は背が高いので見栄えがする。ノーザイルで登れるというので、少し怖いがザイルを付けずに取り付いた。ホールドは豊富で登り易い。半分以上登ったところで、階段状になったところに出るが、そこには、岩屑等が堆積していたので、少し登り難いが左側のすつきりした岩場にルートを求めた。この辺りまで登ってくると高度感がかなりあるので、松田さんがザイルを出そうかと云うが、気分がいいのでそのまま登ってしまった。

関門の滝上には10メートルぐらいの滝が続くが、いづれも直登できる。この辺りは楽しいところである。4つ目の滝を越えてからは、左岸の高巻きとなった。

真沢と北沢の合わさるところには、素晴らしい景観が広がっていた。真沢には幣ノ滝が立ち上がっていてなか

なかの迫力である。一方、北沢も大きな滝が連続して負けていない。ここはしばらく腰を落ち着けて、沢の中にいる幸福感を噛み締めようではないか。

真沢を右に分けて、北沢の4段の大ナメ滝に取り付く。始めの2段は問題ない。3段目の滝は左側に水が流れていて、その右側のぬるぬるスラブに松田さんが取り付くが登れず、結局、右側より、その上の滝とゴルジュと共にまとめて高巻いた。

二俣には6時に着いた。目指す左俣はゴルジュの中に連瀑を有していて、大高巻になる。少し心もとない河原であるが、ここを今日のねぐらとした。

29日 天候 曇り時々晴れ

朝一から大高巻きである。右岸のリッジをブッシュの生えている所まで登り、草つきとスラブのトラバースを延々と繰り返して、やつとのことで、下降点を見出すことができた。沢には懸垂で降りた。

ゴルジュを抜けるとしばらく河原が続いた。途中の広い河原で行動食を取った。その後再び、ゴルジュになるが、沢通しに行ける。

水が冷たくなってきたので、嫌な予感がしたが、やはり雪渓が出てきた。はじめのうちは、崩壊したブロックの上に乗って通過できたが、そのうちにスノーブリッジ

が出てくるようになった。そしてとうとう、いかにも脆そうなスノーブリッジを通過するかどうかの判断を迫られた。ここは、松田さんの泥まみれになって死ぬのは嫌と云う言葉に従って、右岸を巻くことにした。左側の3級程度の岩場を1ピッチ登り、バンドをトラバースしてピッチを切った。松田さんがトラバースしている時には確保している自分に頻りに石が落ちてくるので緊張した。雪渓の終わるところまでスラブをトラバースして、40メートル懸垂で沢に降りた。

その後もゴルジュは続くが、沢通しに逆行できる。今回の逆行は高巻きが多かったので、沢の中を歩けることはことのほか嬉しい。奥の二俣は左俣に進んだ。

もうそろそろ、沢もおとなしくなるだろうと思っていたが、期待は裏切られた。沢は再び二俣になっていた。右俣は急峻なルンゼが続いていて苦労しそうである。左俣にも登れそうに無い滝が見えていた。しばらく迷ったが、左俣の滝の右側が突破できるかも知れないと考え、左俣に取り付いたが、やはり大きく高巻かないと滝は突破できそうもないので、左俣と右俣の中間尾根を登って上に抜けることにした。側壁をザイルで1ピッチほど登ると、傾斜の緩い草つきになった。その草つきをしばらく登り、最後はヤブを少し漕ぐと登山道に出た。



後ろに見える滝は関門の滝

越後の沢は今回が初めてである。少し厳しかったが、途中で見た真沢、帰りの車の中から見たオツルミズ沢は面白そうな沢なので、来年是非廻行したいと思う。



左俣の連瀑帯

コースタイム  
 28日 出発(6:00) 〓 デトノアイソメ平(6:50) 〓 暗峡(7:20) 〓 御月山沢手前(8:10) 〓 高巻き終了(11:30) 〓 真沢と北沢の分岐(15:00) 〓 二俣(17:40)  
 29日 出発(6:00) 〓 広河原(8:00) 〓 二俣(11:00) 〓 稜線(13:00) 〓 十二平(16:40)